

# 地震概況 (平成16年新潟県中越地震)

## ●中越地方を襲った震度7の直下型地震

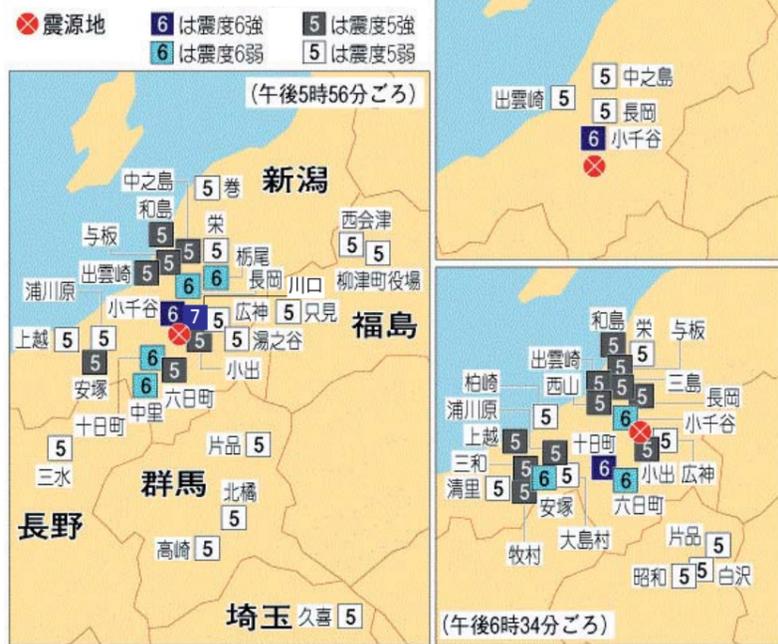
今回の地震に対し、気象庁は「平成16年(2004年)新潟県中越地震」と命名した。

10月23日17時56分頃に新潟県中越地方の深さ約13kmでマグニチュード6.8の地震が発生し、震度計による観測が始まって以来初めて最大震度7を観測した。また、同日18時11分頃にマグニチュード6.0、18時34分頃にはマグニチュード6.5の地震が発生し、いずれも最大震度6強を観測した。

今回の地震は、本震・余震のいずれも深さ約5キロメートルから約20キロメートルの浅いところで断層がずれて発生した直下型地震である。また、この地震によって長さ約21キロメートル(南北方向)、幅約10キロメートル(東西方向)の断層が、北西側から南東方向に向かって約1.8メートルほどずれ、震源地に近い小千谷市の観測地点では約24センチメートル隆起し、南西方向へ約9センチメートル移動したことが国土地理院の調査でわかっている。

### ■23日の震度6強以上の地震

(震度5以上の主な地点)

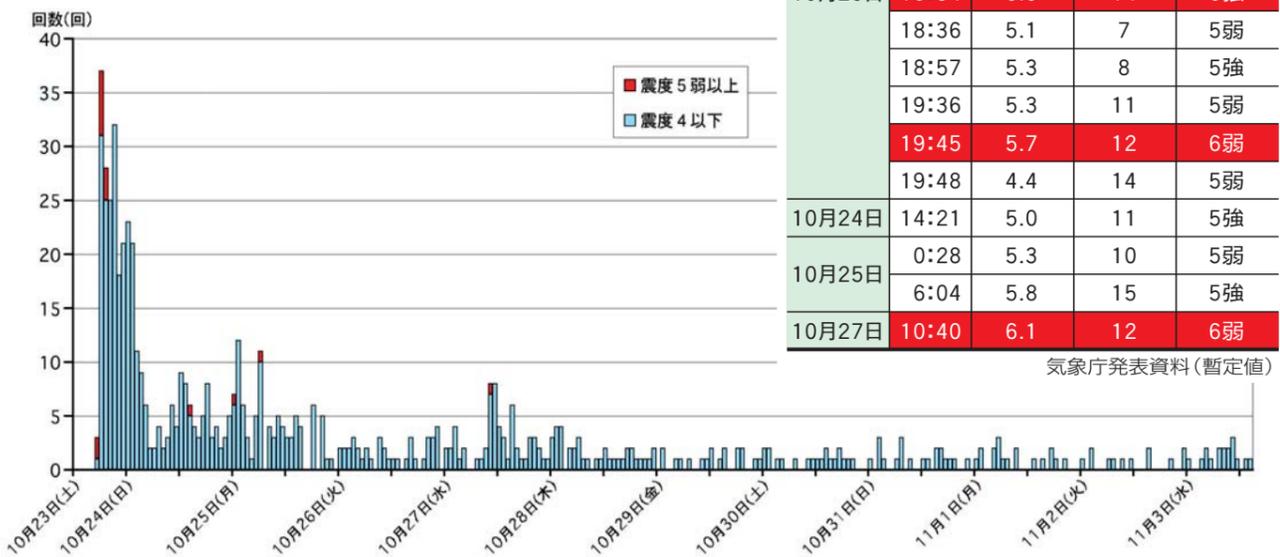


## ●本震の4日後にも震度6弱の余震が発生

10月23日から断続的に発生している余震は、11月3日までに延べ652回(震度1以上)を数え、本震発生より4日を経た27日10時40分頃にも、震度6弱(マグニチュード6.1)の余震が発生している。震度5以上の余震が長期間に、しかも断続的に発生していることが、今回の直下型地震の大きな特徴と言えるが、被災地では、この余震活動の長期化が復旧作業を困難にしている。

### ■新潟県中越地震有感地震発生回数

(気象庁による速報値 11月3日16:00まで)



### ■地震の状況(震度5以上)

(平成16年11月3日 16:00まで)

震源時		マグニチュード	震源の深さ(km)	最大震度
月日	時分			
10月23日	17:56	6.8	13	7
	17:59	5.3	16	5強
	18:03	6.3	9	5強
	18:07	5.7	15	5強
	18:11	6.0	12	6強
	18:34	6.5	14	6強
	18:36	5.1	7	5弱
	18:57	5.3	8	5強
	19:36	5.3	11	5弱
	19:45	5.7	12	6弱
10月24日	19:48	4.4	14	5弱
	14:21	5.0	11	5強
10月25日	0:28	5.3	10	5弱
	6:04	5.8	15	5強
10月27日	10:40	6.1	12	6弱

気象庁発表資料(暫定値)

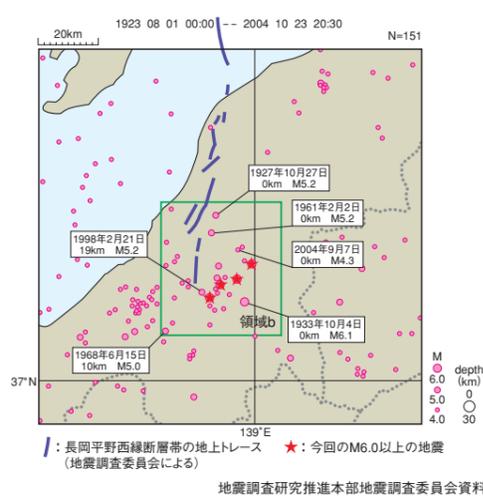
## ●中越地方は大地震の空白域だった?

「新潟県中越地震」の本震及び余震の震源は、信濃川断層帯(長岡平野西縁断層帯、十日町断層帯)と新発田・小出構造線にはさまれた魚沼丘陵の北北東-南南西方向に長さ約30kmに分布している。本震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、推定される断層の位置と余震分布の範囲は、ほぼ一致している(地震調査研究推進本部地震調査委員会)。ただし、10月27日に発生した最大震度6弱(マグニチュード6.1)の余震は、10月23日の最大震度7(マグニチュード6.8)の本震を起した断層とほぼ直交し、対をなす「共役断層」が起したと推定された(国土地理院・気象庁)。

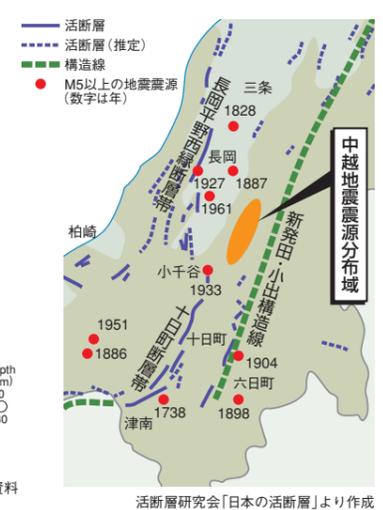
今回の地震が発生した新潟県中越地域は、近い将来には地震が起きると指摘されていた空白域(\*)だったとする見方もある。今回の震源周辺では、顕著な地震発生記録がほとんどなく、犠牲者が発生した事例は1828年12月にまでさかのぼる。この1828(文政11)年に発生した「三条地震」は、マグニチュード6.9の規模で、燕・三条・見附・長岡が甚大な被害となり、死者は1,400人を数えたと記録されている。「三条地震」から「新潟県中越地震」までの176年間、顕著な地震は発生してはいなかった。

(\*)空白域:地殻の歪みがため込まれているが、大きな地震が起きていない領域を「空白域」と呼んでいる。

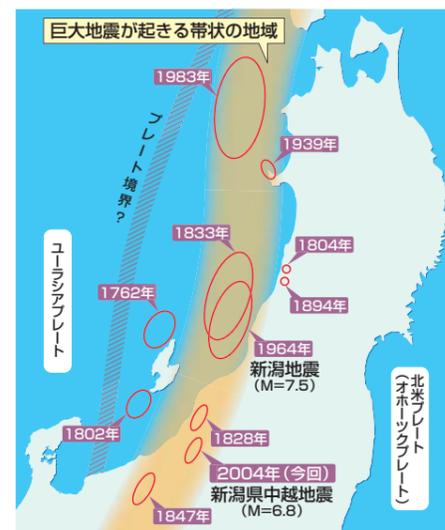
### ■震央分布図(1923年8月以降 M≥4.0)



### ■中越地震の震源分布域と活断層



### ■日本海沿岸域の主な大地震(M6.8)以上



中越地震復旧対策準備室の設置



被災状況を調査したヘリ「みちのく号」(東北地整所有)

## ■地震発生からこれまでの主な動き

- 10月23日
  - 17:56 新潟県中越で震度7、M6.8の地震発生
  - 17:59 新潟県中越で震度5強、M5.3の余震発生
  - 18:00 北陸地方整備局災害対策本部を設置、地震災害の非常体制を発令(管内4支部が非常体制、8支部が警戒体制、6支部が注意体制をそれぞれ発令)
  - 18:10 直轄国道の異常時巡回開始
  - 18:11 新潟県中越で震度6強、M6.0の余震発生
  - 18:25 直轄管理河川の巡視開始
  - 18:34 新潟県中越で震度6強、M6.5の余震発生
  - 19:20 ヘリコプター(北陸地整借上)による被害状況調査を開始
  - 19:45 新潟県中越で震度6弱、M5.7の余震発生
  - 21:00 港湾・空港施設は点検の結果、異常がないことを確認
  - 21:40 東北地整保有ヘリ「みちのく号」による被害状況調査を開始

- 10月24日
  - 北側国土交通大臣が被災地を視察

- 10月25日
  - 24:00 長岡市三依野地先の信濃川右岸堤防の応急復旧完了

- 10月26日
  - 小泉総理大臣が被災地を視察

- 10月27日
  - 7:30 新潟空港の24時間運用開始
  - 10:40 新潟県中越で震度6弱、M6.1の余震発生

- 10月30日
  - 蓮実、岩井両国土交通副大臣が被災地を視察

- 11月2日
  - 16:20 国道17号が全線で通行可能に(和南津トンネルが片側交互通行で開通)

- 11月5日
  - 9:00 「中越地震復旧対策準備室」を北陸地方整備局内に設置し、国道291号の災害復旧及び山古志村東竹沢地区、寺野地区の砂防事業を直轄事業として実施

11月5日現在、北陸地方整備局災害対策本部、長岡国道事務所支部が非常体制を継続中  
湯沢砂防事務所が非常体制に移行



災害対策本部会議の様子